

妊娠中の不快症状と精神健康

阿南あゆみ*・川本利恵子**

Unpleasant Symptom and General Health during Pregnancy

Ayumi ANAN* and Rieko KAWAMOTO**

Low back pain is an unpleasant symptom during late pregnancy. This symptom is recognized more frequently in multipara compared to primipara. Due to the physical symptoms associated with morning sickness in early pregnancy, there is a possibility that the general health of all pregnant women is negatively affected in early pregnancy.

key words: general health, pregnancy, low back pain, morning sickness

目 的

妊娠期間中のホルモンの影響や子宮の増大によって生じるさまざまな不快症状はマイナートラブルとして報告されており、代表的なものに悪阻や腰痛、お腹のはり、浮腫や静脈瘤などがある。これらの不快症状を感じる程度は個人差が大きく、また不快症状が妊娠経過そのものに障害となる場合は少ないため問題視されない傾向にある。しかし不快症状が強ければ妊娠に対する否定感や、胎児に対する愛着に問題が生じる可能性もあり軽視できない。

妊娠は280日間の長期にわたり継続するためさまざまな不快症状が生じ、それにより妊娠中の精神健康は変化することが予測される。妊娠中の精神健康を横断的に調査した先行研究は少なく、また精神健康と不快症状との関連を調査したものは少ない。そこで今回、妊娠初期と妊娠後期にわたり精神健康(GHQ28)を横断的に調査し、さらに妊娠中の不快症状として腰痛と子宮収縮に着目して調査を行ったので報告する。

方 法

調査対象

五つの医療機関(うち1大学病院を含む)を受診した妊婦のうち、研究の主旨に同意の得られた妊婦(胎児心拍確

認後、妊娠10週未満)をリクルート対象とした。調査対象条件として治療を伴う現病歴がなく単胎妊娠であること、また自然妊娠であるという三つの条件を満たす妊婦とした。

調査期間

2010年1~10月

調査内容

1) 妊娠初期調査(妊娠12~16週)

質問紙調査(年齢、家族構成、妊娠歴、現病歴、喫煙習慣、飲酒習慣、住居環境、日常生活時間調査:睡眠・家事・育児・休息時間)、GHQ28

2) 妊娠後期調査(妊娠32~36週)

質問紙調査(日常生活時間調査:睡眠・家事・育児・休息時間、妊娠中の喫煙習慣・飲酒習慣、就労状況・職業歴調査)、GHQ28

3) 分娩時調査

医師診療記より情報転記(今回の妊娠経過や分娩経過、新生児情報)を行った。

倫理的配慮

妊娠初期に対象者に研究の主旨について十分に説明を行い、調査同意を得た。本研究は、産業医科大学倫理委員会(受付番号第08-91)の承認を得て実施した。

結 果

対象者の概要

62名の妊婦を調査対象とした。対象者の概要をTable 1に示す。

分娩時調査の結果、62名全員が正期出産であり、出生児体重の平均値は3031±350gであった。

腰痛と子宮収縮について

妊娠後期調査時に腰痛と子宮収縮に関する質問に関して独自の質問紙を作成し、各質問に対して「非常にある」(5点)~「全くない」(1点)の5件法で調査した。因子構造の一致を確認するため因子分析を行った結果、2因子構造が確認されたため(Table 2)、腰痛に関する質問項目の合計得点を腰痛得点、同様に子宮収縮得点として分析を行った。

腰痛得点を従属変数として初産・経産婦別、家族人数、

Table 1 対象者の概要 n=62 人数(%)

	人数 (%)	年齢 (mean±S.D.)
初産・経産婦別		
初産婦	23 (37.1)	29.2±4.0
経産婦	39 (62.9)	31.3±4.7
就労別		
妊娠初期就労	41 (66.1)	31.5±4.3
妊娠後期就労	17 (27.4)	31.8±4.3

* 産業医科大学 産業保健学部 看護学科

Department of Nursing, University of Occupational and Environmental Health, 1-1, Iseigaoka, Yahata-nishi-ku, Kitakyushu, Fukuoka, 807-8555, Japan

** 日本看護協会

Japanese Nursing Association, 5-8-2, Jingu-mae, Shibuya-ku, Tokyo, 150-0001, Japan

Table 2 腰痛と子宮収縮の質問に関する因子分析 (主因子法, バリマックス回転)

	第1因子	第2因子	共通性
第1因子: 腰痛に関する質問 ($\alpha=0.91$)			
家事(掃除・洗濯・炊事)や仕事をしていると、腰痛などの痛みがありますか	.85		.78
前かがみの姿勢で何かの作業をすると、腰痛などの痛みがありますか	.83		.71
20分以上続けて歩くと、腰痛などの痛みがありますか	.81		.70
立ったままの姿勢で何かの作業をすると、腰痛などの痛みがありますか	.77		.60
約10kg(2歳くらいの子ども、ぬれた洗濯物など)のものを持ち上げたり運んだりすると、腰痛などの痛みがありますか	.64		.69
第2因子: 子宮収縮に関する質問 ($\alpha=0.85$)			
約10kg(2歳くらいの子ども、ぬれた洗濯物など)のものを持ち上げたり運んだりすると、お腹がはる(固くなる)回数がいつもより増えますか		.79	.63
家事(掃除・洗濯・炊事)や仕事をしていると、お腹がはる(固くなる)回数がいつもより増えますか		.76	.63
前かがみの姿勢で何かの作業をすると、お腹がはる(固くなる)回数がいつもより増えますか		.71	.53
20分以上続けて歩くと、お腹がはる(固くなる)回数がいつもより増えますか		.67	.53
立ったままの姿勢で何かの作業をすると、お腹がはる(固くなる)回数がいつもより増えますか		.58	.37
	因子寄与	3.2	2.9
	累積寄与率	32.4	61.5

子ども人数, 母体年齢, 非妊娠時BMI, 階段昇降回数/日, 妊娠後期就労の有無, 睡眠時間/日, 家事時間/日, 育児時間/日を独立変数に重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。その結果, 初産・経産婦別の腰痛に影響を与える変数であり ($\beta=0.40$), 経産婦は腰痛得点が有意に高い結果となった ($p<0.001$)。また経産婦の妊娠後期GHQ総得点と腰痛得点は弱い正の相関を認めた ($r=28$)。

子宮収縮得点と各項目の関連は認めなかった。

妊娠初期と妊娠後期のGHQ28

妊娠初期と妊娠後期のGHQ28を比較すると総得点および身体症状は妊娠後期に有意に低下した (Table 3)。またほかの下位尺度も得点が低下する傾向を認めた。

考 察

妊娠後期調査時の経産婦の腰痛は初産婦に比べて有意に高く, またGHQ総得点と弱い正の相関を認めた。育児や家事等の負担が腰痛の原因となっていることが推察されるため, 腰痛対策への取り組みが必要である。

妊娠中の精神健康は妊娠初期のほうが低く, 妊娠後期に改善することが明らかになった (Anan, Shiiba, Sibata, Tanaka & Kawamoto, 2012)。妊娠12~16週は悪阻による不快症状が身体的症状に最も影響を及ぼすと推察するため, 妊娠初期の不快症状に対する心理的支援や妊婦の訴えに対する傾聴が必要である。

Table 3 妊娠初期と妊娠後期のGHQ28

		Mean \pm SD
総得点	妊娠初期	7.37 \pm 4.57
	妊娠後期	5.44 \pm 3.61
下位尺度 (A)	身体症状	
	妊娠初期	3.13 \pm 1.95
	妊娠後期	1.90 \pm 1.59
(B)	不安と不眠	
	妊娠初期	2.58 \pm 1.63
	妊娠後期	2.24 \pm 1.64
(C)	社会的活動障害	
	妊娠初期	1.55 \pm 1.92
	妊娠後期	1.19 \pm 1.14
(D)	うつ傾向	
	妊娠初期	0.11 \pm 0.32
	妊娠後期	0.10 \pm 0.43

引用文献

Anan, A., Shiiba, M., Sibata, E., Tanaka, M., & Kawamoto, R., 2012 Mental and Physical Stress of Pregnant Women and Work. *JJOMT*, 60(1): 45-54.

(受稿: 2013.1.10; 受理: 2013.2.10)